



「『高知の授業の未来を創る』推進プロジェクト事業 令和3年度高知の授業づくり講座」では、学習指導要領が目指す授業づくりを推し進めるとともに、日常的に授業研究に取り組む風土づくりを行い、自ら学び続け、共に高め合う教員の育成を目指し、拠点校を会場に教材研究会・授業研究会を1セットとして実施します。高知市の中学校英語の拠点校である城北中学校の第3回【教材研究会】(11月1日実施)、第4回【授業研究会】(12月3日実施)を中心に本単元の学びの様子を紹介します。

単元名 第1学年 “Think Globally, Act Locally” NEW HORIZON English Course 1 Unit9 (東京書籍)

単元を通して付けたい力 学習指導要領「話すこと[発表]」-(イ)日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

CAN-DOリスト形式の学習到達目標 第1学年 **話すこと[発表]** 関心のある事柄や体験したことなどについて、簡単な語句や文を用いて話すことができる。

単元ゴールの言語活動 よりよい社会を目指して、お互いの考えを共有するために、世界的な問題の現状を踏まえ、簡単な語句や文を用いて自分の考えを話す活動。

扱う言語材料 不定詞(名詞的用法), look + 形容詞

単元のゴール活動で目指す生徒の発話例 Hello, I'm OO. Thank you for your message. We learned about poor countries in English class. We can study at school every day. Look at the children in this picture. They look happy. But they can't go to school. They need to work for their family. I feel very sad. I want to know about many countries. So, I need to study hard. Thank you.

b基準

単元計画 (全6時間) 単元を通して、テーマを変えながら話す活動に繰り返し取り組む。

1時間目: 単元ゴールのイメージをもつ。世界的な問題(教育)について、教師から現状を聞き、自分ができることや感じたことを伝え合う。⇒タブレットで撮影。

2時間目: 世界的な問題(食)について、教師から現状を聞き、自分ができることや感じたことを伝え合う。⇒タブレットで撮影。

3時間目: 第1時、第2時で考えた世界的な問題について、自分の日常と比較して自分の考えをより詳しく伝え合う。⇒タブレットで撮影。

4時間目: 世界的な問題を啓発する動画の内容を視聴し、自分の日常と比較することで問題点を捉え、それに対する感想や自分の考えを伝える。⇒タブレットで撮影。

5時間目: これまでの学習をもとに、世界的な問題における印象に残っている内容について、自分なら何ができるかということについてペアで伝え合う。⇒タブレットで撮影。

6時間目: 高知商業高校の生徒会に、世界的な問題の現状を踏まえ、自分の考えをビデオメッセージで伝える。また、ビデオメッセージの内容について、英語でポスターを作成する。

言語活動を通して 資質・能力を育成する

教材研究会 (11月1日実施) 1/6時間目 2~3/6時間目

授業について提案&研究協議 【協議の視点】 本時のめあてを達成するための「効果的な中間指導」とは？

第4時の言語活動 よりよい社会になるように、世界的な問題を啓発する動画の内容を説明し、それに対する自分の考えや気持ちを伝える。

目指す生徒の表現例 Look at this girl. She is Aisha. She is thirteen. She is walking to the river. She goes to the river and collects water. She walks for a long time every day. She looks very hard and sad. She needs to carry water for her family. She can't go to school. I was shocked. I want to help children like her.

「目指す生徒の表現例」に近づくようにするためには、どのような中間指導が必要か？

【参加者の意見】

○内容面

- ・「どんな風に見えた？」と問いかけることで、気持ちを表現させることができるのではないかな。
- ・自分自身の生活のタイムテーブルをメモして、自分の日常とアイシャの生活を比較することで、自分たちの生活を振り返り、情意面に訴えかけることができるのではないかな。

○言語面

- ・言いたかったけれど言えなかった表現については、生徒の発話を板書することで、言語面の指導(文法を含む)ができるのではないかな。

【教材研究会の振り返り】

- ・難しい内容だったが、チャレンジすることの大切さを感じた。「やってみよう!」という気持ちを持ち、授業をつくっていきたい。
- ・タブレット端末を使用して動画説明を行い、ペアトークする流れはおもしろいと思った。
- ・中間指導の際、発言する生徒が間違えても、みんなで学べるような雰囲気づくりを大切にしたい。

【教材研究会におけるICTの活用】 **ここがすごい!**

事前に「授業づくり講座 教材研究会のクラスルーム」を作成し、教材研究会では、授業で使うスライド、資料等を参加者と共有するなど活用した。

↓

教材研究会後も、参加者から意見やアイデアを募集し、授業研究会に向けて、提案授業をブラッシュアップ。

単元ゴールを共有 世界的な問題について、自分の考えを話す

世界的な問題について自分の考えを伝えるために、国際的な活動に取り組む高知商業高校生徒会の活動を知る。

相手: 高知商業高校の生徒会 **目的・場面・状況が明確!**

目的: 世界的な問題についてお互いの考えを共有する

①高知商業高校生徒会からの英語メッセージを視聴する。 “What can you do?”

②問いかけに対して、ペアで自分の考えを伝え合う。

③世界的な問題(教育)について、教師から現状を聞き、メモを取る。

④世界的な問題(教育)について、教師から現状を聞き、メモを取る。

⑤④を基に、スライドを見ながら現状や自分ができること等をペアで伝え合う。

⑥話した内容をタブレットで撮影し、提出する。

ワークシートの項目

- ①事実の描写
- ②自分なら何ができるか
- ③本時の振り返り

Do ⑤④を基に、スライドを見ながら現状や自分ができること等をペアで伝え合う。

Do again ⑥話した内容をタブレットで撮影し、提出する。

Do ②世界的な問題(食)について、教師から現状を聞き、メモを取る。

Do ③②を基に、スライドを見ながら現状や自分ができること等を伝え合う。

Do again 【手立て】 「問題」についての知識や背景等の情報を得るために、多くの資料をスライドで共有する。

Do again 【第3時における中間指導の視点】 自分の日常と比較しながら、自分の考えを話せるようにするために、第1~2時で考えた世界的な問題について、自分の日常を振り返らせる指導を入れる。(単元ゴールに向けてスモールステップを踏む)

Do again 【本単元におけるICTの活用】 ~授業者より~ 毎時間、話した内容をタブレットで撮影し、提出させたことで、生徒の発話を見取ることができ、どこでエラーを起しているかを早期に発見することができた。これまで、「話すこと」を可視化するために、話した内容を書かせるようにしていたが、GIGAタブレットによって、生徒の発話そのものを見取ることが可能となり、次時へのフィードバックに生かすことができるようになった。始めは撮影に抵抗を感じていた生徒も、繰り返しうちに、操作や撮影もスムーズに行えるような変化が見られた。



授業研究会 (12月3日実施) 本時 4/6時間目

6/6時間目

提案授業

本時の目標：よりよい社会を目指して、互いの考えを共有するために、世界的な問題を啓発する動画の視聴を通して、自分の日常と比較することで問題点を捉え、それに対する感想や自分の考えを伝えることができる。

Small Talk (1日のルーティン) 本時の言語活動において使える表現を使う。



日常的に自分自身がやっていることを振り返らせる。(自分事にする)

ペアを変えて、再度伝え合う。

I usually take shower every morning. So, I'll stop taking shower. How about you?

Small Talkで扱った「1日のルーティン」を想起させながら、単元のゴールである「What can you do?」の問いかけに対して、自分の考えを伝えるよう、先生がモデルを示す。

自分ができることについて、アイデアを共有する。



水を大切にすること。 「水を大切にすること」を英語でどのように表現すればよいか、全体で考えさせる。始めは単語で出させながらも、文で言わせるように、*「誰がするの?」とたずねることで、主語を常に意識させることができていた。 *山田調査官の講話Iを参照

世界的な問題を啓発する動画を視聴し、メモを取る。



動画の感想を伝え合う。(日本語でもOK) What do you think?



自分たちが学校に行っている時間に、アイシャは生きるための水を汲みに行っていることが分かった。

世界的な問題(水)について、【①事実②様子③感じたこと】について伝え合う。



How does she look?

S: She looks tired. T: Why? She has no time because she needs to collect water.

動画の内容を指導者と生徒の英語によるインタラクションによって確認する。アイシャの表情等に注目させ、情意面に訴えかけることで、自分の考えや気持ちを引き出させる。また、【①事実②様子③感じたこと】を話すように、項目に分けて板書することで、この後のペアトークで話す手立てにする。

見方・考え方を働かせながら言語活動に取り組む

自分の日常生活と比較してみてください。どのような表現を使えば自分の考えが伝わるのか?

Do you usually collect water every day? - S: No. Do you usually study at school? - S: Yes. I can go to school every day.



机間指導で生徒の対話の様子を聞いて、中間指導をする。 ↓ 自分の日常と比較するよう、再度確認をする。(本時のゴールを再確認) ↓ ペアを変えて、再度伝え合う。

1人の意見を全体共有する。



発表後は、代表生徒の意見に対して先生が同意しつつ、言語面においては、正しい表現を示すフィードバック(リキャスト)をしながら自然にエラー修正を行う。

タブレットで撮影し、クラスルームに提出する。



3つの要素 ①事実・様子 ②感じたこと ③自分の考えで話せるように仕向ける。

本時の板書

生徒が使えるような汎用性のある表現例を板書する。



研究協議

協議の視点 本時の言語活動における中間指導は、本時のめあてを達成するための手立てとして有効だったか。

講師講話

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 山田誠志 先生



【言語面における中間指導の留意点】

1. 文構造(語順)の指導をする

生徒から出た疑問を教材にして、「誰が」「どうする」「何を」を意識して話してみよう、という指導をすることで、全員の学びにつながり、汎用性のあるものになる。

【本時の一場面】

S1: 「節約」って、何て言うの? Ss: save T: save いいね。誰がするの? Ss: I... ちがう、Weだ! T: We...何をsaveするの? Ss: 水。We can save water.

2. 生徒から出た疑問を具体化する

「〇〇を英語でどう言うのですか」という疑問については、その疑問に対して、更に問いながら具体化させていくことで、生徒自身に結局自分が何を言いたいのかを思考させることにつながる。

3. パラフレーズ(言い換え)に時間をかけすぎない

できるだけ生徒が持っている知識を駆使させ、生徒自身が知っている表現を使わせることが大切。よって、既習で表現できない場合は、先生が教えてあげたり、ALTに尋ねるなど、パラフレーズに時間をかけすぎないようにする。授業の後には、個別でフォローすることも大切である。

学習指導要領「話すこと(発表)」の目標について →学習指導要領p.24~p.26

ア:「即興」ならば、生徒が背景知識をもっていることについて表現させる。シンキングタイムやマッピングを用いることなく、話せる内容。=関心のある事柄。

イ:「まとまりのある内容」ならば、整理する時間を取ることが必要になることもある。

ウ:「社会的な話題」は生徒にとって身近なことではない場合が多いため、表現内容をもつ際の参考となるものがあるとよい。聞いたり、読んだりしたことをもとに、それを引用することによって、生徒にとってハードルを下げる事が可能。

「社会的な話題」を取り扱う場合は、「聞いたり、読んだりしたこと」を基に、スモールステップで取り組ませる。単元を通して繰り返し、スモールステップを踏ませることで、一人でも多くの生徒が「これも言えた!」「できるかも!」と思わせるようにしてスローラーナーも取り組めるようにしてほしい。また、最終的にどんな英語を話させたいかという出口を先生がしっかりもった上で、単元を積み上げて指導していくことが大切。

【参観者より】

・意図的に既習表現を使わせるようにしている指導がとても上手。 ・中学1年生にとっては難しいトピックなので、自分の意見や考えを言う場面で停滞してしまっただけ。しかしながら、先生がたくさんの資料を準備し、タブレット端末を用いて生徒に共有することで生徒から言葉を引き出しており、この手立てが素晴らしい。 ・板書も、生徒が意見や考えを言う手立ての一つとなっていた。



～授業を終えて～

これまで、生徒たちは、自分の興味のあることについては、スローラーナーの子でも自力で英語で話すなど意欲的な態度を見せてくれました。今日の授業では、生徒が英語でいきいきと話す場面が少なかったため、生徒の実態に応じた目的・場面・状況の設定の工夫を図り、自分の考えや気持ちを英語で適切に伝えるコミュニケーション力を育成していきたいと思えます。

～高知商業高校生徒会とのつながり～

本単元の学習を終えて、城北中1年生が高知商業高等学校生徒会に書いた手紙を届けました。2月の参観日に生徒のみなさんに来校いただくことができなくなりましたが、なんと、生徒会のみなさんが1年生に手紙を書いて届けてくれました! 直接会うことはできませんでしたが、よい交流ができたと思います。



(佐野 亜尽 主幹教諭)